高齢者の居場所づくり「わたしの居場所」実態調査

静岡福祉大学社会福祉学部 楢木ゼミ（研究室）
指導教員：教授 楢木博之
参加学生：青木咲葉　伊澤磨咲　石川ひより　佐藤愛華
佐野星莉亜　陦香菜美　瀧口琴美

１　要約

本研究は伊豆の国市の高齢者の居場所の実態を明らかにすることを目的に、75歳以上の住民にアンケート調査を行った。その結果から、商業施設等の居場所を活用していること、居場所の移動手段は自家用車が多いこと、男女の意識差があること等が明らかとなった。地域への提言として、①自家用車での移動が困難になった場合の交通手段の確保、②居場所へのニーズを踏まえた商業施設の活用、イベントの企画・実施、③家にいながらも居場所のメリットを共有できるコンテンツの提案、の3点とした。

２　研究の目的

令和5年度ゼミ学生等地域貢献推進事業で行った研究において、以下の点が課題となった。居場所の課題として、居場所の意義等の理解を広げていく「居場所の周知」、居場所としての役割を果たしていくための「居場所の強化」、「参加していない人へのアプローチ方法」等が挙げられた。インタビューの中で共通していたこととして、「居場所に参加していない人の実態を把握ができていない」ことであった。そこで本研究は伊豆の国市の高齢者の居場所の実態を明らかにし、伊豆の国市の高齢者の居場所づくりに対する施策についての提言を行うことを目的とする。

３　研究の内容

（1）当初の計画

以下の方法で研究を行う。

①伊豆の国市の社会資源を確認する。
②高齢者の居場所についての調査のための質問紙を作成する。
③伊豆の国市の高齢者の居場所について、地域を限定してアンケート調査を行う。
④アンケート回答者に対して、居場所についてインタビュー調査を行う。
⑤伊豆の国市他で誰もが参加しやすい居場所づくりを行う。
⑥①～⑤の結果を報告し、伊豆の国市長寿福祉課と意見交換を行う。
⑦高齢者の居場所づくりに対する施策について報告書としてまとめ、提言する。

（2）実際の内容

以下の方法で研究を行った。

①伊豆の国市の「居場所」を旧地区ごとに確認する。
②高齢者の居場所についての調査のための質問紙を作成する。
③伊豆の国市の高齢者の居場所について、地域を限定してアンケート調査を行う。
④伊豆の国市で誰もが参加しやすい居場所づくりを行う。
⑤①～④の結果を報告し、高齢者の居場所づくりに対する施策について報告書としてまとめる。

４　研究の成果

（1）高齢者の居場所についてのアンケート調査

伊豆の国市の千代田地区在住の75歳以上の方を対象に、居場所に関するアンケート調査を実施した。千代田地区を選定した理由として、地域において住民同士の繋がりが強い地域であること、街中から離れているため公共交通機関の利用が限られる地域とした。実施方法は千代田地区長にアンケート調査を依頼し、アンケート用紙、返信用封筒を地区長に送付した。地区長から地区の75歳以上の方に班単位で渡してもらうようにした。千代田地区の75歳以上の方は191名で、全員を対象とした。回答は97名（有効回答数92名）あり、回収率は50.8%であった。調査期間は10月中旬にアンケート用紙を配布し、11月22日（金）を回収期限とした。分析方法は、単純集計結果をまとめるとともに男女と年齢別でクロス表を作成し、分析を行った。尚、本調査の居場所とは、「自宅以外で安心して過ごせる場所」としている。

倫理的配慮として、依頼文書にて調査目的と目的以外に活用しないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。また、アンケート結果をまとめる上で個人が特定されないように配慮している。

アンケート結果は以下のとおりである。

ⅰ基本情報

回答者の年齢は、「75～79歳」58名（63.7%）、「80～84歳」25名（27.5%）、「85～89歳」6名（6.6%）、「90歳以上」2名（2.2%）であった。年齢別の比較では、「75～79歳」58名（63.7%）、「80歳以上」33名（36.3%）とした。性別では男性56名（60.9%）、女性36名（39.1%）であった。

ⅱ居場所に関する回答

「居場所に行くことがあるか」については、「行くことがある」65名（70.7%）、「行くことがない」27名（29.3%）であった。男女と年齢別で比較したクロス表は表1のとおりである。

表1　居場所に行くこと

	全体数（n＝92）	男性（n＝56）	女性（n＝36）	75～79歳（n＝58）	80歳以上（n＝33）
行くことがある	65名（70.7%）	38名（67.9%）	27名（75.0%）	42名（72.4%）	23名（69.7%）
行くことがない	27名（29.3%）	18名（32.1%）	9名（25.0%）	16名（27.6%）	10名（30.3%）

「行くことがない」と回答した27名にその理由を尋ねると「交通手段がない」4名（14.8%）、「行きたい場所がない」18名（66.6%）、「行く体力がない」6名（22.2%）、「家にいたい」12名（44.4%）、「行っても楽しくない」3名（11.1%）、「知り合いがいない」5名（18.5%）、「その他」1名（3.7%）であった。年齢別、性別のクロス表は表2のとおりである。

表2　居場所に行かない理由

	全体数（n＝27）	男性（n＝18）	女性（n＝9）	75～79歳（n＝16）	80歳以上（n＝10）
交通手段がない	4名（14.8%）	3名（16.7%）	1名（11.1%）	2名（12.5%）	2名（20.0%）
行きたい場所がない	18名（66.6%）	14名（77.8%）	4名（44.4%）	12名（75.0%）	5名（50.0%）
行く体力がない	6名（22.2%）	4名（22.2%）	2名（22.2%）	2名（12.5%）	4名（40.0%）
家にいたい	12名（44.4%）	6名（33.3%）	6名（66.7%）	6名（37.5%）	5名（50.0%）
行っても楽しくない	3名（11.1%）	2名（11.1%）	1名（11.1%）	2名（12.5%）	1名（10.0%）
知り合いがいない	5名（18.5%）	4名（22.2%）	1名（11.1%）	5名（31.3%）	0名（0.0%）
その他	1名（3.7%）	0名（0.0%）	1名（11.1%）	1名（6.25%）	0名（0.0%）

以降の回答は「行くことがある」と回答した65名に尋ねた。どのような『居場所』に行っているかについては、「地区サロン」9名（13.8%）、「温泉会館」5名（7.7%）、「公園」10名（15.4%）、「デイサービス」3名（4.6%）、「習い事」4名（6.2%）、「図書館」9名（13.8%）、「商業施設」21名（32.3%）、「体操教室」10名（15.4%）、「その他」37名（56.9%）であった。「その他」の意見として、「グランドゴルフ」「職場」「公民館のカラオケ」「友人」との意見が多くあった。年齢別、性別のクロス表は表2のとおりである。

表3　居場所

	全体数（n＝65）	男性（n＝38）	女性（n＝27）	75～79歳（n＝42）	80歳以上（n＝23）
地区サロン	9名（13.8%）	3名（7.9%）	6名（22.2%）	6名（14.3%）	3名（13.0%）

温泉会館	5名（7.7%）	3名（7.9%）	2名（7.4%）	4名（9.5%）	1名（4.4%）
公園	10名（15.4%）	10名（26.3%）	0名（0.0%）	5名（11.9%）	5名（21.7%）
デイサービス	3名（4.6%）	0名（0.0%）	3名（11.1%）	0名（0.0%）	3名（13.0%）
習い事	4名（6.2%）	1名（2.6%）	3名（11.1%）	2名（4.8%）	2名（8.7%）
図書館	9名（13.8%）	8名（21.1%）	1名（3.7%）	6名（14.3%）	3名（13.0%）
商業施設	21名（32.3%）	11名（28.9%）	10名（37.0%）	15名（35.7%）	6名（26.1%）
体操教室	10名（15.4%）	3名（7.9%）	7名（25.9%）	8名（19.0%）	2名（8.7%）
その他	37名（56.9%）	24名（63.1%）	13名（48.1%）	26名（61.9%）	11名（47.8%）

居場所に行く頻度については、「毎日」4名（6.5%）、「週4～5回」8名（12.9%）、「週2～3回」22名（35.8%）、「週1回」21名（33.9%）、「月1～2回」7名（11.3%）だった。

居場所に行くための交通手段は、「徒歩」15名（23.1%）、「公共交通機関」7名（10.8%）、「家族の送迎」6名（9.2%）、「自転車」2名（3.1%）、「自家用車（自分で運転）」47名（72.3%）、「タクシー」4名（6.2%）、「その他」2名（3.1%）であった。年齢別、性別のクロス表は表4のとおりである。

表4　交通手段

	全体数（n＝65）	男性（n＝38）	女性（n＝27）	75～79歳（n＝42）	80歳以上（n＝23）
徒歩	15名（23.1%）	11名（28.9%）	4名（14.8%）	11名（26.2%）	4名（17.4%）
公共交通機関	7名（10. 8%）	3名（7.9%）	4名（14.8%）	5名（11.9%）	2名（8.7%）
家族の送迎	6名（9.2%）	2名（5.3%）	4名（14.8%）	4名（9.5%）	2名（8.7%）
自転車	2名（3.1%）	2名（5.3%）	0名（0.0%）	1名（2.4%）	1名（4.4%）
自家用車（自分で運転）	47名（72.3%）	30名（78.9%）	17名（63.0%）	31名（73.8%）	16名（69.6%）
タクシー	4名（6.2%）	3名（7.9%）	1名（3.7%）	4名（9.5%）	0名（0.0%）
その他	2名（3.1%）	0名（0.0%）	2名（7.4%）	1名（2.4%）	1名（4.3%）

居場所に行くきっかけは「友人がいるから」24名（36.9%）「楽しいから」39名（60.0%）、「健康のため」33名（50.8%）、「誘われたから」4名（6.2%）、「暇だから」8名　（12.3%）、「その他」9名（13.8%）であった。その他の意見は「仕事」「調べもの」等だった。

居場所に期待することは、「楽しみ」31名（47.7%）「友人との交流」37名（56.9%）「新たな出会い」18名（27.7%）「送迎」3名（4.6%）「バリアフリーな環境」0名（0.0%）「食事の提供」4名（6.2%）「その他」5名（7.7%）であった。その他の意見では、「趣味の幅を広げる」「半分ボランティア」の意見があった。

（2）伊豆の国市の居場所の地域別比較

伊豆の国市にある「居場所」の数を伊豆長岡・韮山・大仁地区で比較した。「居場所」をサロン、公的な居場所、民間の居場所と分けた。伊豆長岡地区は、サロン4ヶ所、福祉的な居場所3ヶ

所（温泉会館等）、商業施設（ガスト、S PARK等）、韮山地区はサロン14ヶ所、福祉的な居場所（韮山ぶなの森等）4ヶ所、商業施設（ココス、マックスバリュ、エスポット等）、大仁地区はサロン6ヶ所，福祉的な居場所（くっちゃべりや処雑貨よろずや等）8ヶ所、商業施設（道の駅伊豆のへそ・モスバーガー、マクドナルド・アピタ等）であった。

（3）誰もが参加しやすい居場所の実施

令和6年9月23日（月）に伊豆の国市にて「誰もが参加しやすい居場所」を企画、実施した。くっちゃべり処「よろずや」を会場として、子どもから高齢者が参加しやすいように、駄菓子屋と風鈴・スライム作りを行った。また、地元業者のキッチンカー（カレー）も駆けつけてくれ、当日は地域住民が子どもから高齢者まで参加する「居場所」となった。居場所の企画と実施を行って気づいたことは以下のとおりである。

居場所に多くの人が参加していくためには、チラシやポスター、回覧板、SNSなどを用いて、活動があることを知る機会をつくる。また、活動内容を具体的に明記したり、写真などを用いたりするなど、参加したいと思えるチラシ作りも大切ではないかと考えた。公共交通機関の近くや、地域住民が把握している場所を居場所とすることが求められる。居場所に来ている人たちと関係性を築き、楽しい雰囲気を出すことが、誰でも気軽に訪れやすい空間をつくることにつながり、人が集まりやすくなると考えた。

（4）伊豆の国市の課題

本研究をとおしての伊豆の国市の高齢者の居場所について明らかになったこととして、福祉的な居場所だけではなく、商業施設等の居場所を活用していること、仕事が居場所になっている人がいること、居場所の移動手段は自家用車が多いこと、居場所には楽しみや健康を求めている人が多いこと、男女の意識差があること、居場所に行かない人は「行きたい場所がない」と感じている人が多いことであった。この結果を踏まえた伊豆の国市の課題として、①自家用車での移動が困難になった場合や身体が不自由になった場合の居場所の縮小への対応、②「行きたい場所がない」と感じている人たちの理由や生活への影響の明確化、③男性の居場所のニーズと福祉的居場所のズレ、の3点が考えられる。

５　課題提出者・地域への提言

地域への提言は以下の3点である。①自家用車での移動が困難になった場合の交通手段の確保、②居場所へのニーズを踏まえた商業施設の活用、イベントの企画・実施、③家にいながらも居場所のメリットを共有できるコンテンツの提案である。

①は伊豆の国市で最近始めた福祉車両の貸し出しは方法の一つと考えられるが、その普及啓発を行うとともに、それ以外の方法も検討していくことが必要ではないか。②では、男女共に参加できる楽しみや健康を備えた居場所を、商業施設等を活用し実施していくこと、その際に住民同士で誘い合い、繋がりを継続していくことができるのではないか。③は、「家にいたい」というニーズを満たしながらも健康を維持できる身体を動かすコンテンツ、例えば自宅でもできる体操やeスポーツの普及などが考えられる。

本研究のアンケート調査は地区を限定して行われているため、伊豆の国市全体の課題とは言い切れない。引き続き高齢者の居場所の実態を明らかにしていくことも必要ではないかと考える。

６　課題提出者・地域からの評価

令和5年度より引き続き、伊豆の国市における地域課題である「高齢者の居場所」について、「居場所に参加していない人へのアプローチ」に関する調査・研究を行っていただきありがとうございました。

アンケート調査に関しましては、市内全域を対象とするのではなく、公共交通機関の利用が限られる千代田地区に居住される高齢者全員を対象とすることで、市街地以外にお住まいの高齢者の課題を確認することができたと考えております。高齢者の移動手段については、以前からの課題であり、現状では良い手段がないことが実情です。今後、居場所について考える際には、この点についても引き続き検討を進めてまいりたいと思います。また、居場所の選定に関しましては、市内にある3か所の老人福祉施設を中心に考えておりましたが、高齢者以外の方々も男女問わず集まることのできる商業施設での居場所づくりについても、今後の検討課題として取り組んでいきたいと考えております。さらに、自宅で行える体操については、介護予防の観点からも非常に重要であるため、積極的に推進してまいります。

今回いただきました貴重な提言をもとに、高齢者の居場所づくりを進めていきたいと思います。